
今日も今日とて変人達は平和に暮らしている

墮落者断

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日も今日とて変人達は平和に暮らしている

【Nコード】

N7913W

【作者名】

墮落者断

【あらすじ】

とある学校のお話。

この物語にでてくる人間は変人です。変態ではありません。たとえ匂いに発情しようとも無表情なくせて甘えん坊だろうがバカップルだろうが実は一人だけファンタジー系キャラだろうが皆変人です。

そんな彼ら彼女らの日常たまに非日常を書いた物語…になったら嬉しいなあ…。

後輩と先輩（前書き）

初投稿

とりあえずのんびり書いていきたいです

後輩と先輩

廊下にて

「後輩」

呼ばれて振り返ると良く知る先輩が数センチ近くに立っていた。
…近い

「どうかしましたか？先輩」

「うむ、偶然見かけたので話しかけてみた」

「そうですか」

先輩は僕の言葉に笑みを深めると、さらに僕に近づいて（数ミリ単位にまで接近）鼻息を荒くする。

「…何をしてるんですか？」

「君の匂いを嗅いでいるんだ…！」

「…匂いますかね？」

「ああ！私には最高級の匂いが…！」

…ちよつと私の鼻に息を吹き掛けてくれないか？」

言われて、大人しく息を吹き掛ける。

先輩はそれを勢い良く吸い込むと体をガタガタ振るわせた。それと同時に先輩の匂いが強くなる

「…ふう、すまない、思わず賢者になってしまった」

「よくわかりませんが、お役に立ててなによりです」

「うむ、よき心掛けだ、思わずむしゃぶりたくなったぞ」

「家でして下さい」

「…つまり今夜はOKという事だな」

先輩は頷くて僕を抱き締める。

「ああ、今すぐ体育倉庫にでも連れていきたいが、今は我慢しようでは、また後でな」

そういつて、僕のおでこに唇を落とし、名残惜しげに離れる先輩。

…どうせされるなら唇がよかったなあ…。

そんなことを思いながら、僕も教室へと戻っていった。

後輩と友人（前書き）

こんな短くてとくに面白くない話なのにこの更新の遅さ
文才が欲しいです…

後輩と友人

教室にて

「ねえねえ友君、飴はあるかな？」

「さっき食べたでしょ」

「ハムーン」

なにかいちゃついているカップルがいた。
とりあえず無視をしよう。

「お、帰ってきたか」

そういつてこちらをみるバカップルの片割れ。
しまった、見つかった。

「おかえり〜」

もう一人の方が相方に頬擦りしながらいう。

「やあ、友人、相変わらずバカップルだね爆発しろ」

「なんで爆発しなければいけないんだ？」

「リア充だからだよ」

「お前もだろうが」

失敬な。

僕のどこがリア充だというんだ。

「自覚無しかよ」

ふう、とため息をついて、友人は恋人の頭を撫ではじめる。

…別に羨ましいとか思っていないからね？先輩に同じことされたいなあ…とか、もっと激しいことされたいとか思っていないからね？

どちらにしろ今夜やつてもらうしね！

「おい、なぜかお前が言うなと発言しなくなったんだが」

「相変わらずの電波っぷりだね」

「人を痛い子扱いするな」

「少なくとも変人だよな？」

「それはお前もだ」

そこまで言い合って、二人同時にため息をつく。

僕がよく一緒にいるグループは周りから『変人チーム』と呼ばれている。

なんでも、友人の父親がこの高校に通ってた時にそう呼ばれるグループがあり、それからつけた、と先生は言っていた。

正直、否定したいが、自分が他の人と比べ少し変わっているという自覚があるので否定できない。

もっとも、先生と比べたら僕らはまだましだが。

だってあの人、変人って呼んだら喜ぶし。

変態って言ったらキレるけど。

「大丈夫、変人な友君でもボクは愛してるから」

「うん、フォローになってないし、というかお前も変人の中に入ってるからな？」

「ハムーン」

そんなやり取りをやってまたいちゃつき始める友人とその恋人。

僕はそれを32 ぐらいの暖かさで見守りながら、次の授業の準備を始めた。

… 早く放課後にならないかなあ…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7913w/>

今日も今日とて変人達は平和に暮らしている

2011年10月27日13時03分発行